

## 有田市地域公共交通会議（ネットワーク全体の評価）

### 1. 協議会が目指す地域公共交通の将来像

#### 公共交通の将来像

■有田市の概要（令和6年12月1日現在）

【人口】25,274人 【面積】36.83k㎡ 【高齢化率】36.48%

【主産業】石油精製、ゴム製品等の製造業、果樹栽培、沿岸漁業

■公共交通の基本方針（有田市地域公共交通計画より）

【①地域公共交通が一体となった取り組みの推進】

それぞれの主体同士が連携することにより、交通ネットワークを形成・維持します。

【②使いやすい わかりやすい 交通サービスの充実】

地域公共交通の利用者の増加し、収益を改善します。

【③未来へ繋ぐ まち全体で支える地域公共交通】

地域公共交通に対する関心を高め、ともに取り組み、支えていきます。

#### 公共交通ネットワークのイメージ図

※別添参照

### 2. 目標設定及びその達成状況の評価に関する事項

市民の暮らしに寄り添い、持続可能な交通体系を実現するために、以下の目標・効果の達成状況に基づく評価を行う。

（参考）

評価指標名	現状値	目標値 (令和9年度)	基本 方針
新たな地域公共交通の導入数（累計）	0	1	①
事業者との意見交換回数（回/年）	3	6	
3駅の鉄道利用者数（人/日）	2,063	2,300	②
有田市デマンドバス利用者数（人/年）	9,881	22,000	
有田市デマンドバスの行政負担金額 (万円/年)	約540	現状程度を維持	
有田市デマンドバスの収支率（%）	9.3	現状値以上	③
地域公共交通に関する情報発信の実施 回数（回/年）	3	12	
公共交通利活用促進に向けた取組実施 回数（累計）	1	5	

### 3. 目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

#### (1) 取組経緯

本市では民間バス路線の撤退により、鉄道駅周辺以外の住民の公共交通手段が失われるおそれがあった。そのような中で、高齢者等の交通弱者の交通手段を確保するため、地域内フィーダー系統補助金を活用し、JR箕島駅と接続するデマンドバスを市内全域で運行させている。

令和6年4月からは、利用者数の増加を目的として、学生の通学利用を考慮したダイヤ改正・路線再編を行った。また、関係各所と連携して高齢者や移動困難者等に乗車チケットを配布している。

#### ■有田市地域公共交通会議の開催状況

R6. 1. 31 地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

R6. 6. 21 地域内フィーダー系統確保維持計画について

#### (2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等

##### 補助対象事業

地域公共交通確保維持改善事業				
事業	実施主体	着手・実施期間	種別	事業概要
有田市デマンドバス	中紀バス株式会社	R5. 10. 1～ R6. 9. 30	フ	市内全域で路線バス（一部デマンド）を運行する。

【種別】幹：地域間幹線系統、フ：地域内フィーダー系統、策：計画策定事業、利策：利便増進計画策定事業、利推：利便増進計画推進事業、継策：運送継続計画策定事業、継推：運送継続計画推進事業

その他補助事業			
事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要

##### 非補助事業

事業	実施主体	着手・実施期間	事業概要
時刻表の作成・配布	有田市	R5. 10. 1～ R6. 9. 30	有田市デマンドバスの時刻表を作成し、市内各所で配布

### (3) 生産性向上の視点から取り組んだ事業

※「(2) 目標を達成するために行う事業・実施主体・事業概要等」のうち、生産性向上を目指して取り組んだ事業について、その内容を記入して下さい。

※上記以外の事業においても、該当する事業・取組等があれば、その内容を記入して下さい。

事業	取組内容	効果目標
乗車割引サービス	・小学生、障がい者、高齢者運転免許証返納証明書保持者の運賃割引 ・乳幼児の運賃無料 ・市立病院の受診患者で運転免許証返納証明書保持者へ乗車券の配布	利用者・運賃収入の増加
利用促進	・高齢者や移動困難者に対してデマンドバス無料チケットの支給 ・中学生の通学利用に合わせた路線再編・ダイヤ改正	利用者の増加

## 4. 具体的取組に対する評価

令和6年4月の路線再編・ダイヤ改正で学生の通学利用数が増えたことや高齢者や移動困難者に対して乗車チケットを配布したことで、デマンドバスの利用者数は大幅に増加している。

また、事業については、地域住民の日常生活における移動の支えとして、本市のデマンドバスは全路線が箕島駅と接続しており、市内のほぼ全域を網羅していることから適切に実施されている。

## 5. 自己評価から得られた課題と対応方針

課題	課題への対応方針
路線再編・ダイヤ改正等の取組みから、利用者数は増加傾向にあるものの、その増加数のほとんどが学生のため、それ以外の利用者増加に取り組む必要がある。	学生以外の利用者増加のため、利用促進に向けた取組の実施や情報発信を行う。また、関係各所との意見交換を行い、連携を強化する。

## 有田市地域公共交通会議（これまでの経緯）

### 1. 昨年まで（直近）の二次評価の活用・対応状況

昨年まで（直近）の二次評価における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
<p>事業の適切性については、評価できる。</p> <p>アンケートや乗降調査等による利用者ニーズを把握し利便性の向上を図るとともに、引き続き地域の関係者との連携を深めて持続的な交通サービスの創出に取り組まれない。</p>	<p>地域住民や利用者のニーズを踏まえて、学生の通学利用及び利便性の向上を目的とした路線再編・ダイヤ改正を行った。</p>	<p>利用促進策を継続して実施しつつ、実施後の効果を評価・検証し、学生・高齢者に限らず幅広い世代が活用できるよう取り組む。</p> <p>公共交通にとって安全・安心は重要であるため、継続して利用促進に務めていき、利用者数を確保する。</p>

### 2. アピールポイント、特に工夫した点など

- ・市立病院において、運転免許証返納者が来院した際にバス回数券1回分を配布した。
- ・高齢者運転免許証返納証明書の提示者への運賃割引制度をPRするため、市のホームページにて掲載するとともに、前述している市立病院の取組とリンクすることで病院利用者へ利便性を紹介した。
- ・市内中学校の統合による通学利用を考慮した路線再編・ダイヤ改正を行った。その中でも通学に特化したスクールライナーを設け、通学の利便性の向上を図るとともに、一般客との混乗も可能とし、必要に応じて学生以外も利用できるようにしている。
- ・市内事業者と協力し、スーパー等の敷地内やその近辺へバス停を設置、また住民からの要望も考慮した路線再編・ダイヤ改正を行い、利用者の利便性の向上を図った。
- ・関係各所と連携して、高齢者や移動困難者等に乗車チケットの配布を行った。

○公共交通ネットワークのイメージ図

